

準初段から六段まで

新入から1級まで

〔解説〕

肉 体 老 善 精 神 老

動きがある暢達した線をしっかりと習う

同じ字は変化を

▶教範・書範は右課題を「行書」で、師範は「楷書」で出書して下さい。

肉 体 の 力 は 老 い る
 一 か 一 善 人 の
 精 神 の 力 は き い な ぐ

おか だ りゅう ほう 書
 岡 田 龍 芳 書

▷用具=自由(黒色に限る)

▷用紙=本会段位用紙

〔解説〕

慈 善 は 家 庭 始

長く 中心

	家	慈
	庭	善
イ	か	は
ギ	ら	
リ	始	
ス	ま	
	る	

おお たに せい じょう 書
 大 谷 清 城 書

▷用具=自由(黒色に限る)

▷用紙=本会級位用紙

- ◆3月課題予告(行書)
 最良の先生は時
 最高の師範は経験
 スペイン
- ▼教範・書範Ⅱ楷書
- ▼師範Ⅱ行草または草書

★肉体の…(書体Ⅱ行草または草書)
 フセノフォン(前四〇頃〜前四五頃)
 古代ギリシヤの軍人・文筆家
 老年になれば、だれでも体は衰えま
 す。でも精神の力も一緒に衰えるとは
 限りません。老いてもなお、心の活力
 を失わず精神的に若々しく、社会に貢
 献していききたいものです。
 ※古代ギリシヤでは、「善人」とは社会
 に対して開かれていいる人間をさすこ
 とです。

- ◆3月課題予告(楷書)
 深慮遠望
 これこそが
 勇気である

★慈善は…(書体Ⅱ行書)
 イギリスのことわざ
 幼いときに家族や身内の者を大事に
 するようにしつけられると、大人になっ
 てからも周りの人たちを大事にするよ
 うになる、というのがキリスト教の思
 いやりの精神です。
 しかし外面ばかりよくて、家庭を顧
 みない夫に向かって、妻が不満をぶつ
 ける時にも使われる言葉のようです。

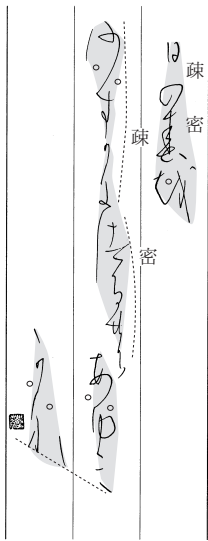
一般部かな課題

締切り 2月22日(必着)

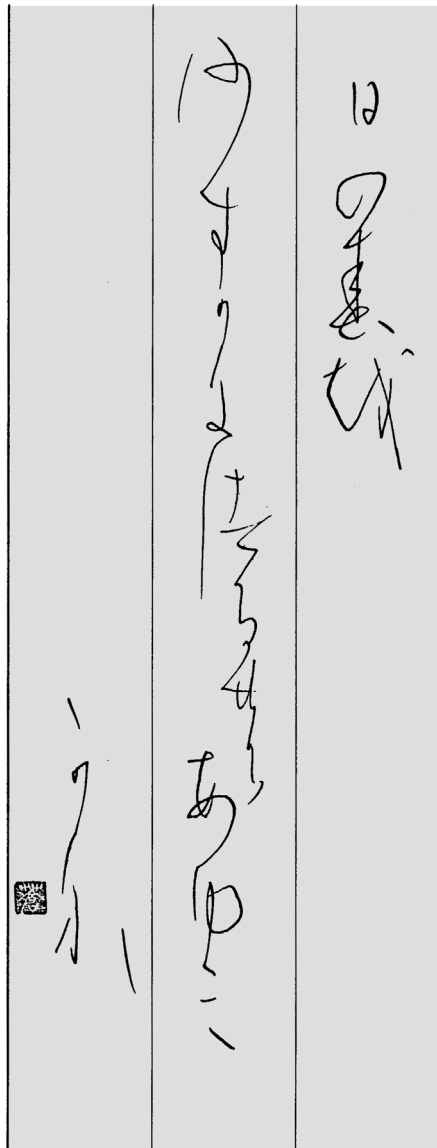
準初段から六段まで

新入から1級まで

〔解説〕



日の春をさすがに鶴の歩みかな

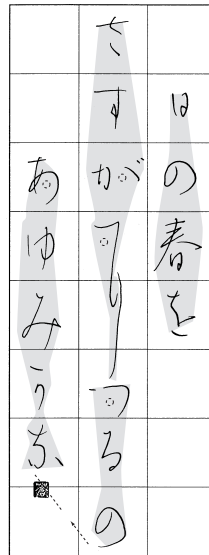


おぎ 荻 田 蒼 仙 書

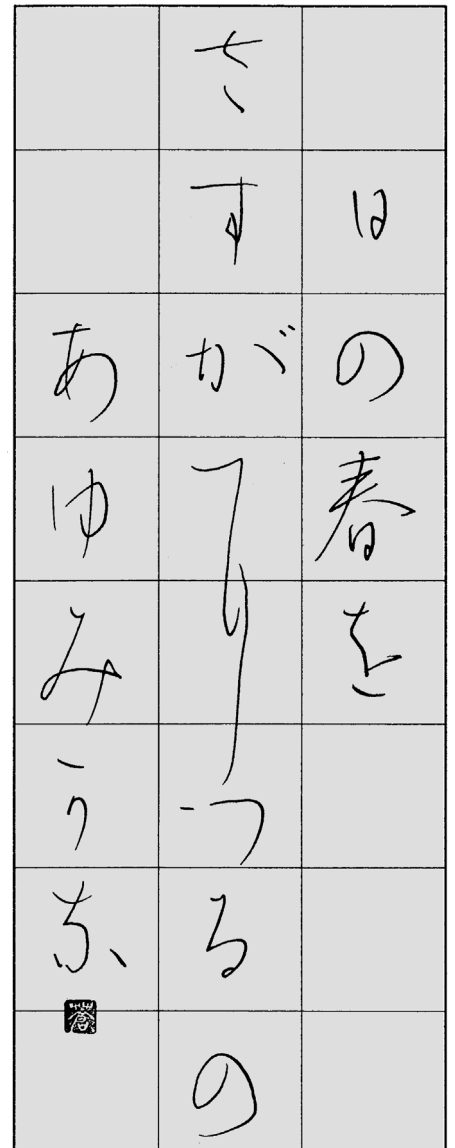
▷用具=自由(黒色に限る)

▷用紙=本会段位用紙

〔解説〕



日の春をさすがに鶴の歩みかな



おぎ 荻 田 蒼 仙 書

▷用具=自由(黒色に限る)

▷用紙=本会級位用紙

日の春をさすがに鶴の歩みかな (其角)

〔句意〕日の春は正月を意味します。朝日をあびて鶴がゆったり歩いている。その姿はいかにも初春にふさわしいものである。

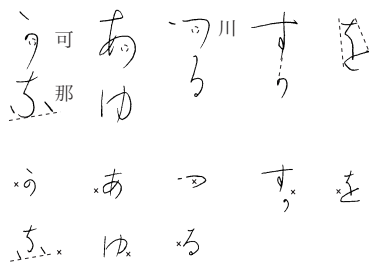
〔級位ワン・ヒント〕

えてして形に集中して形が出来る。満足し勝ちですが、やがてリズムや線の美しさが要求されます。練習時は両者を一度に意識して書くのではなく、一枚は形、一枚はリズムというように分けて練習をし、出品作は両者を取り入れて仕上げるように努力して下さい。ペンの重さだけで書く練習も。

〔段位ワン・ヒント〕

作品に古筆をとり入れる場合、その字が一行の上か中か下か、どの位置にあったものか、即ち上の位置にあったものは一応上で使う方がよいということです。

創作古筆の中にはそのまま使うと誤字になるのがあります。古筆にあるからと言っても誤字は誤字として落選します。一応心得ておいて下さい。その為にも高野切、関戸等の基本古筆をしっかり勉強して、基本を修得して下さい。

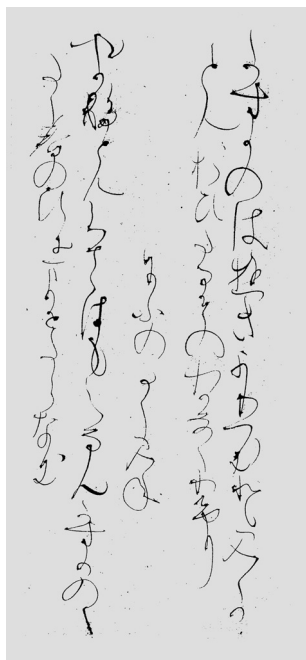


◆3月課題予告

雨ふるやうすうす焼くる山のなり

(龍之介)

〔古筆参考〕

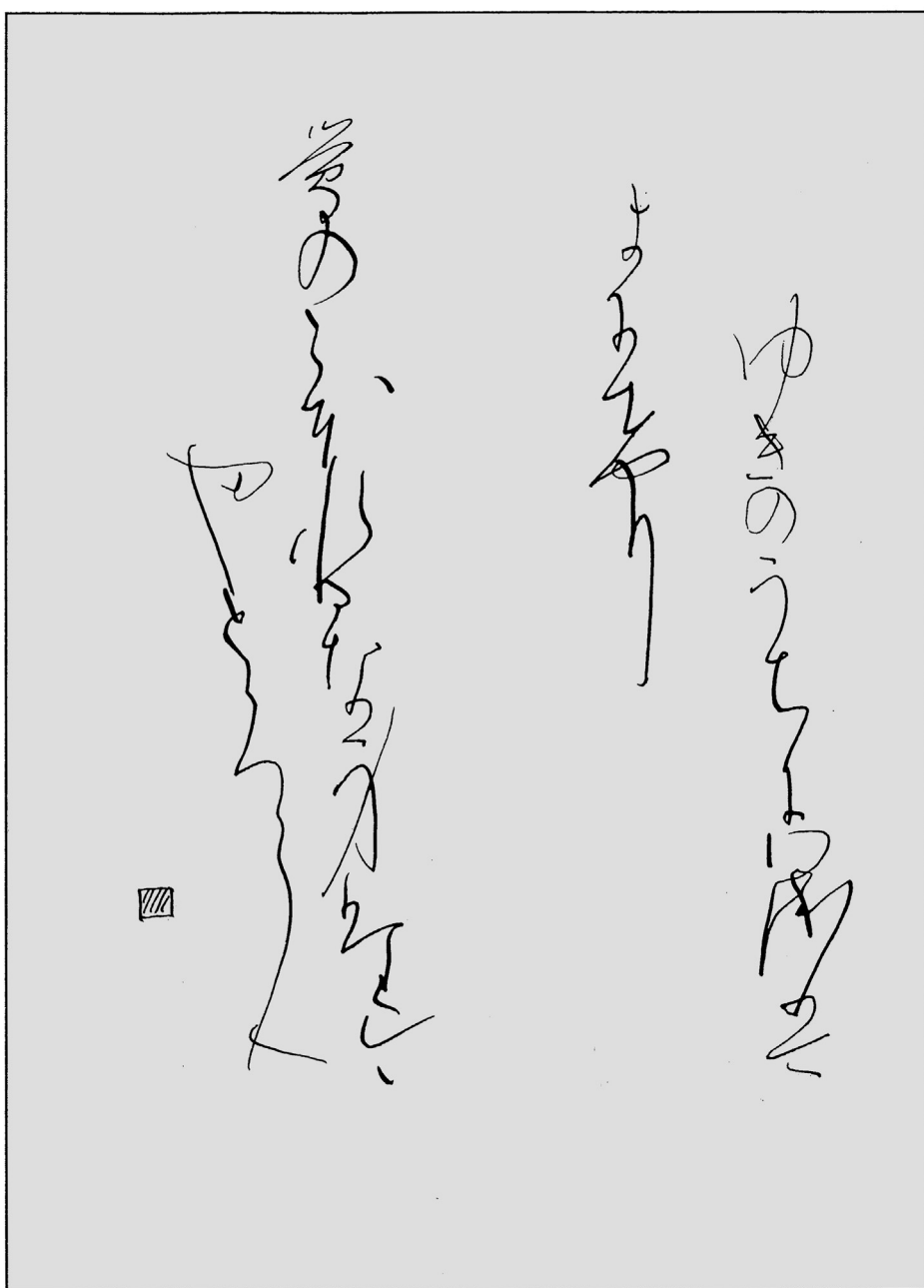


香 紙 切

可^カ
か^カす^スが^ガの^ノは^ハ遊^{ユウ}び^ビふ^フり^リつ^ツむ^ムと^ト見^ミ(脱^{ダツ}カ)
も^モお^オひ^ヒた^タる^ルも^モの^ノ(は^ハ)わ^ワかな^ナり^リけ^ケり
ど^ドも^モお^オひ^ヒた^タる^ルも^モの^ノ(は^ハ)わ^ワかな^ナり^リけ^ケり
や^ヤか^カず^ズと^トも^モく^クさ^サは^ハも^モえ^エな^ナん^ンか^カす^スが^ガの^ノ
た^タゞ^ヅ春^{ハル}の^ノひ^ヒに^ニま^マか^カせ^セたら^ラな^ナむ

締切り 二月二十二日（必着）

築瀬舟香書



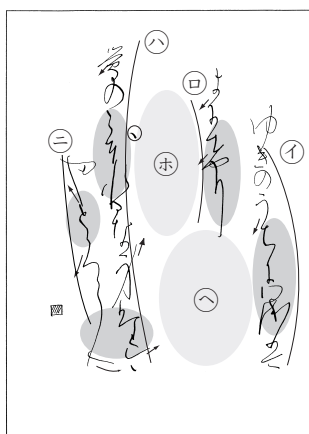
ゆき 雪のうちに春は来にけり 鶯の
 本 尔八流盤支尔希
 な身堂
 こほれる涙今やとくらむ
 无
 にじょうのきさき

二條后

〔歌意〕雪が残って景色はまだ冬のまなのに、暦の上では春になった。山深く冬に堪えていた鶯の涙は寒さに凍っていたが、今はそれもとけて、まもなく美しい声で鳴きはじめることだろう。

〔出典〕古今和歌集（新潮日本古典集成）

〔解説〕



● イとニ、ロとハ、イとハ、ロとニ、
それぞれ呼応。

- (ホとへ) 大きな間を作ること。

・疎密、墨の動きを作る。

●「本」の○の位置注意。

-  の方向に注意。

香紙切とは

昨年一年間學んでまいりました関戸本古今集、そして高野切一、二、三種、寸松庵色紙のような基本的な古筆とは対照的に、香紙切は変化に富み、清爽華麗、大胆にして自由奔放、作品に取り入れてとても楽しい古筆です。

◆3月課題予告

見わたせば柳桜をこきまぜて
みやこぞ春の錦なりける

（古今和歌集）

締切り 2月22日(必着)

お正月の帰省でのんびり過ごしているうちに、体重が三キロも増加。メタボリック症候群の仲間入りにならぬようにウォーキングでもと思いつく、寒さを口実に先延ばしになっています。一緒にどう？

お正月の帰省でのんびり過ごしているうちに、体重が三キロも増加。メタボリック症候群の仲間入りにならぬようにウォーキングでもと思いつく、寒さを口実に先延ばしになっています。一緒にどう？

◎手本は水性ボールペン使用

作品の出し方

- 新入から師範まで、どなたでも出書できます。成績は評価により毎月変わります。
- 用紙Ⅱはがき課題ははがき用紙、横書き課題は一般部段位用紙を横に使用。
- 用具Ⅱはがき、横書き課題ともに自由。(黒色に限る)
- 両課題とも、書体変換は自由です。

横 書 き 課 題

おか じま けい せん
岡 嶋 桂 川 書

1890年(明治23),上野の博覧会で、日本で初めて電車が走った。

山形県尾花沢市 氏 名

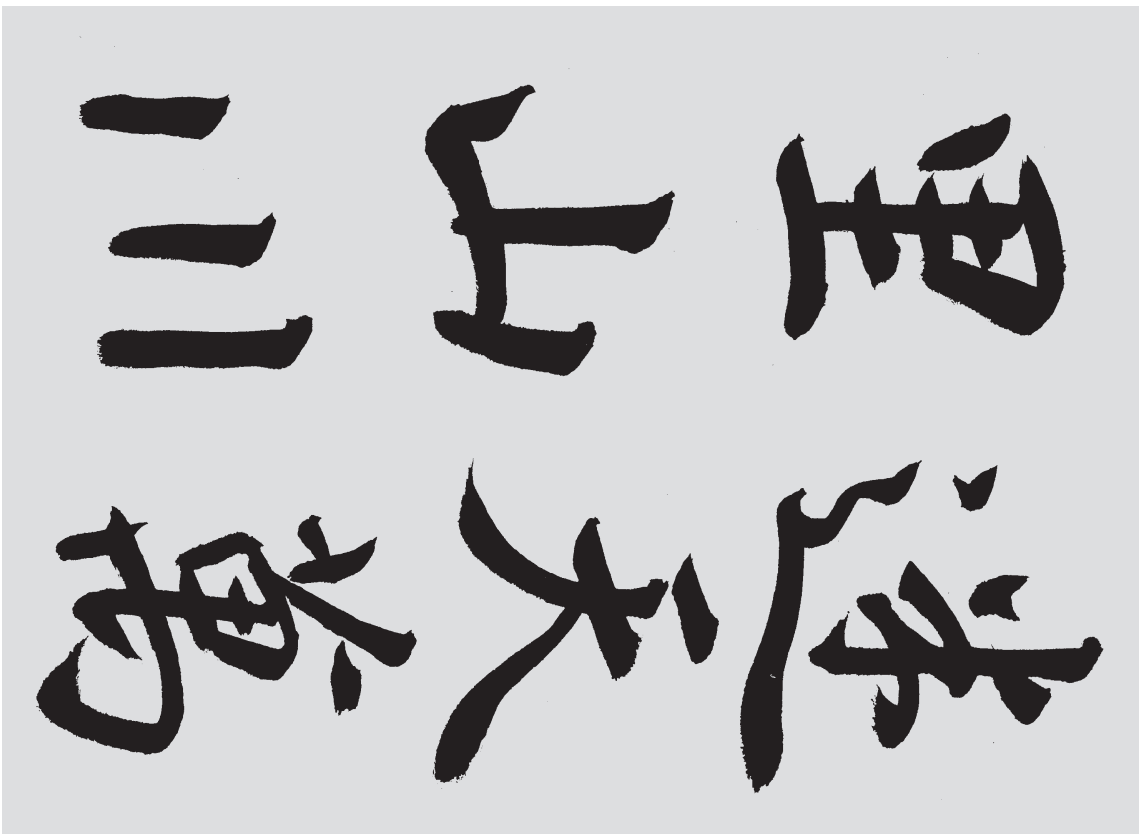
※手本は、つけペン使用。 ★三行目は、指定の地名と氏名を書いて下さい。

一般部毛筆漢字課題

締切り 2月22日 (必着)



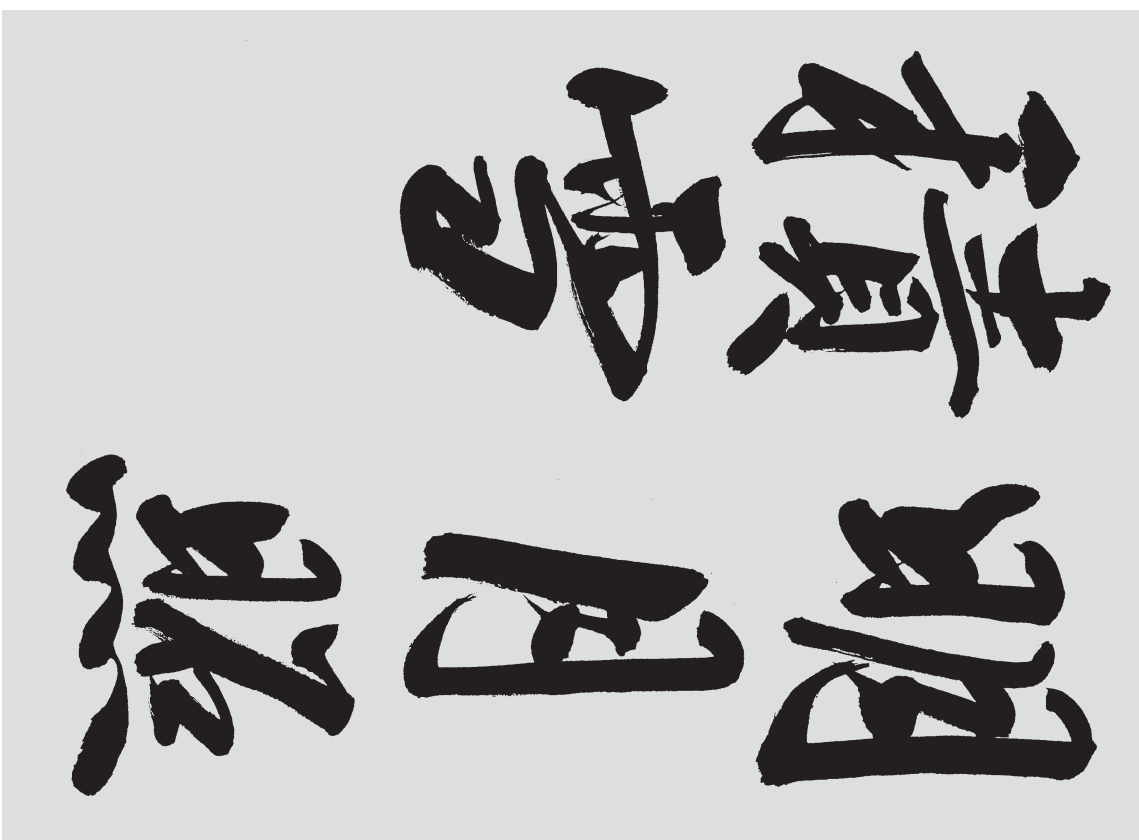
迷 天 萬 里 山 川



〔出典〕集字聖教序（672） 〔筆者〕王羲之法書より集字
〔読み〕（空外）^{くうがい} 天に迷う。^{てん まよ} 万里の山川に^{ばんり さんせん}

準初段から師範まで

奥村暢之臨
^{おくむらのぶゆき}



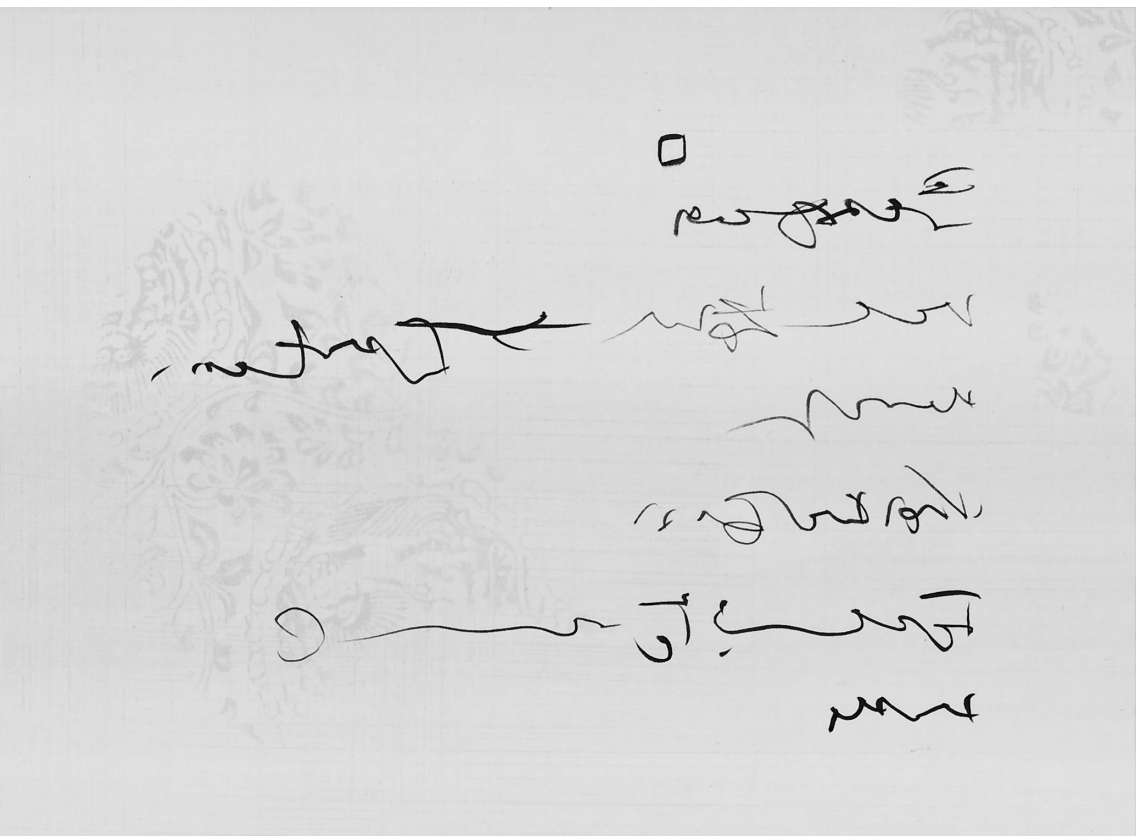
新入から1級まで（行書）

中村竹童書
^{なかむらちくどう}

〔読み〕明月積雪を照らす
〔大意〕明月は積もった雪を照らしている。

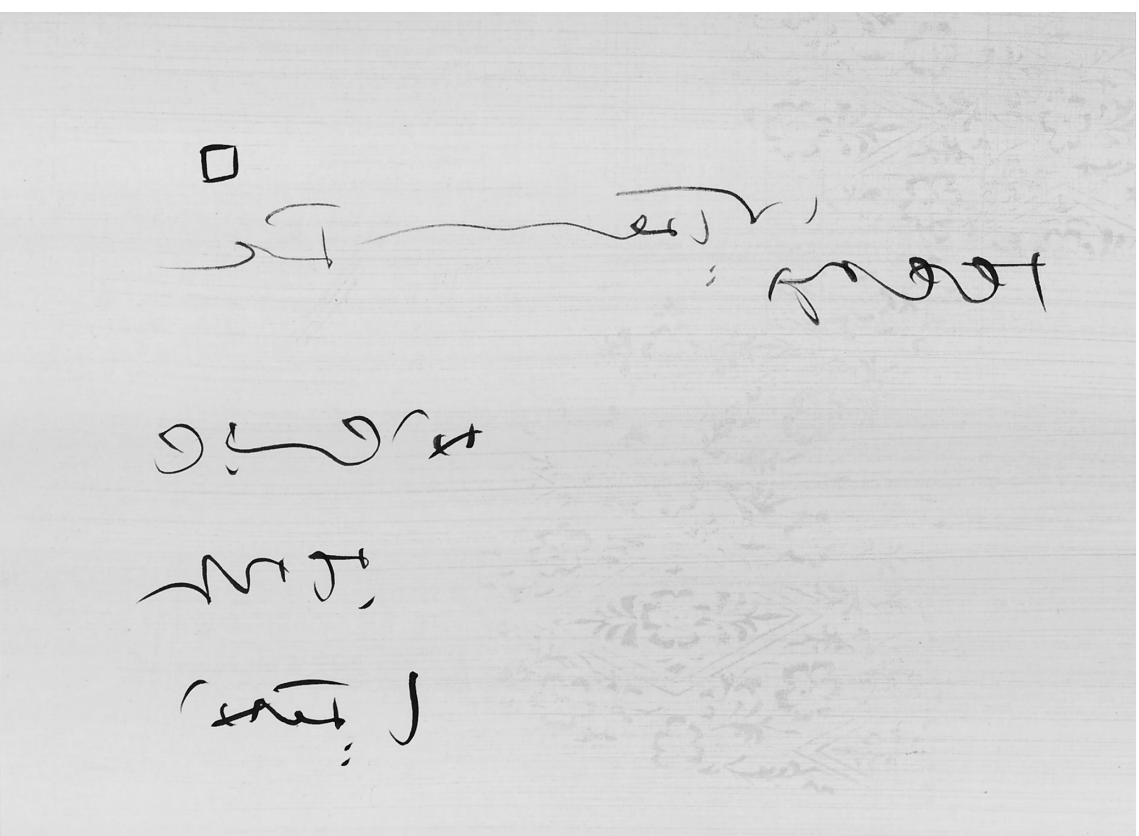
一般部毛筆かな課題

締切り 2月22日 (必着)



準初段から師範まで

椿落て昨日の雨をこぼしけり
つばなはるのふあめ



新入から1級まで

浅井機山先生書
あざい きざん せんせい しょ

花ぞふ嵐の庭の雪なうで
はなぞふあらしのにわのゆきなうで
ふりゆくものはわが身なりけり
ふりゆくものはわが身なりけり
ふりゆくものはわが身なりけり

〔出典〕 百人一首 (96) 入道前太政大臣
にゅうどうぜんたいていじん

〔歌意〕 花を誘って散らす嵐の吹く庭は、雪のように花が降りくるが、
実(み)は雪ではなく、真(ま)に古(ふる)りゆくものは、このわが身(み)なのだった。

〔出典〕 与謝無村

〔句意〕 庭前の即吟(ていぜんのか)であろう。椿の花(つばな)がぼとりと落ち、まっていた昨日(きのう)の雨滴(あめつゆ)をこぼしたというのである。

一般部毛筆細字課題

一般部毛筆条幅課題

締切り 二月二十二日（必着）

半切（一三六cm×三五cm）

新井清泉書



りんがいゆききえさんしよくしずかに
林外雪消山も静窓
そうせんはるあさくちくせいさむし
窓前春浅竹聲寒

韋振

〔大意〕 林につもった雪は消えて山は青みをおびて静かに、窓さきには春まだ浅く竹のひびきも寒げである。

初出品の方へ

支部名・会員番号・姓名・毛筆漢字成績を、作品左下に必ずお書き下さい。

〔条幅解説〕 創作への展開Ⅱ角川書道字典から、行・草書を抜粋しました。自分の創意工夫で作品が自分のものになり、楽しみが倍増します。

書 鳳 高 野 平



先日は名産山魚送下さいまして
有難うございました箱の中へ
松葉はお宅の裏山に茂って
いたのかと思ひ浮べました

田村貞子

半紙（334mm×240mm）

・先日は名産御恵送下さいまして有難うございました箱の中の松葉はお宅の裏山に茂っていたのかと思ひ浮べました（ご自分の氏名）
・印で墨つぎしました。

〔条幅・細字作品の出し方〕

■ 新入から師範まで、どなたでも出書できます。
■ 成績（天位5等）は、評価により毎月変わります。
■ 書体変換、変体仮名の交換は自由です。

〈ようぐ〉自由(黒色にかざる)

1 み	1 2 ち
1 2 3 け	1 2 い
1 2 ね	1 2 3 さ
1 2 こ	1 2 3 4 な

◆ひらがなトレーニング(なぞってかいてみよう)

★新入は、年少・年中・年長の別を記入して下さい。
★幼年は、全員8マス用紙で出書して下さい。

み	ち
け	い
ね	さ
こ	な

よ
う
年

幼・小一年 三宅容玉書

千	み
ば	ん
づ	な
る	で

新入1級

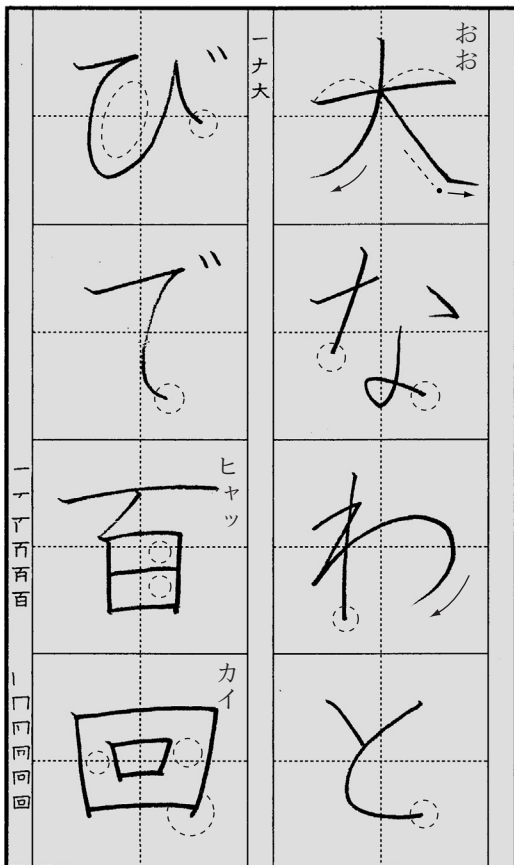
(注) えんぴつ書きでは、消しゴムを使ってはいけません。

づ	あ	み
る	わ	ん
お	せ	な
ろ	千	で
う	ば	カ

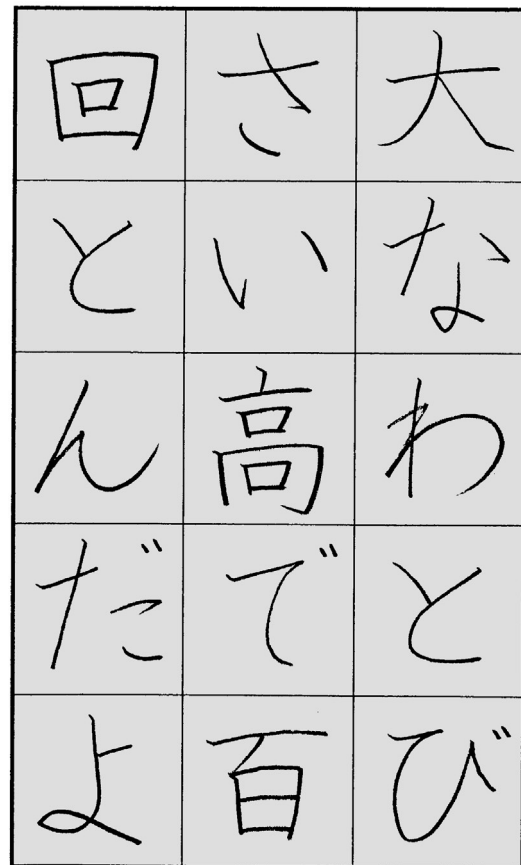
小
一
年

準初段以上

〈ようぐ〉自由(黒色にかざる)



新入1級



小二年

準初段以上

小二・小三年
古田瑞苑書



新入1級

(注) えんぴつ書きでは、消しゴムを使ってはいけません。



小三年

準初段以上

小四年

き	お	た
物	祝	ん
を	い	生
選	に	日
ぶ	置	の

準初段以上

新入1級

に	た
置	ん
き	生
物	日

〈用具〉自由(黒色に限る)

小五年

品	た	卒
を	す	業
準	記	生
備	念	に
中	の	わ

(全員)

小五以上は、全員15マス用紙で出書して下さい。

解説(よく見て習いましょう)

念	卒
品	業
準	生
備	記

小四以上 尾郷翠光書

小六年

(全員)

散	一	日
策	つ	本
し	嚴	三
た	島	景
よ	を	の

嚴島＝広島県にある島の名前です。

解説(よく見て習いましょう)

嚴	田
島	本
散	三
策	景

〈ようぐ〉自由(黒色に限る)

中一年

(行書)

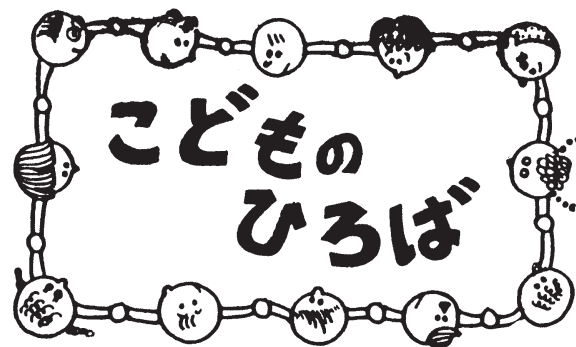
収	別	き
に	し	ち
協	資	ん
力	源	と
を	回	分

中二・三年 (行書)

上	た	高
で	め	校
勉	休	受
強	日	験
だ	返	の

◎お手本は、15マスはつけペン、8マスはデスクペンで書きました。

▼小三年以下の課題 くり 栗 もと 本 れい 麗 こう 光 書



しめきり 2月22日(必着)

習っていない漢字は、
ひらがなで書いてもよろしい。

▼小四年以上の課題 か 加 とう 藤 えい 映 げつ 月 書

庭 ^{にわ}	二 ^{ふた}	大 ^{おお}	一 ^{いち}	朝 ^{あさ}
で	つ	き	面 ^{めん}	起 ^お
ニ	並 ^{なら}	な	の	きた
ツ	んで	雪 ^{ゆき}	銀 ^{ぎん}	たら
コ		だ	世 ^せ	
リ		る	界 ^{かい}	
		ま		

◎お手本はつけペン使用

◇作品の出し方

- 一、選定用紙（五行・四行）に書いて下さい。
- 一、作品には、支部名（校名）学年、氏名を書き入れて下さい。
- 一、筆記用具は自由です。（黒色に限る）
- 一、低学年は四行用紙を使用してもよろしい。その場合は、文章を適当に短くして下さい。
- 一、成績は評価により毎月変わります。
- 一、支部会員は、出品ラベルを必ず貼って下さい。貼っていない方は新入とみなします。

◎お手本はえんぴつ使用

せ	ひ	元 ^{げん}	福 ^{ふく}	お
つ	び	気 ^き	は	に
分 ^{ぶん}	き	な	内 ^{うち}	は
の	わ	声 ^{こえ}		外 ^{そと}
日 ^ひ	た	が		
	る			



幼年〜小二年

玉樹小
華書

わ大な
小二

ち

ち

長めに
大

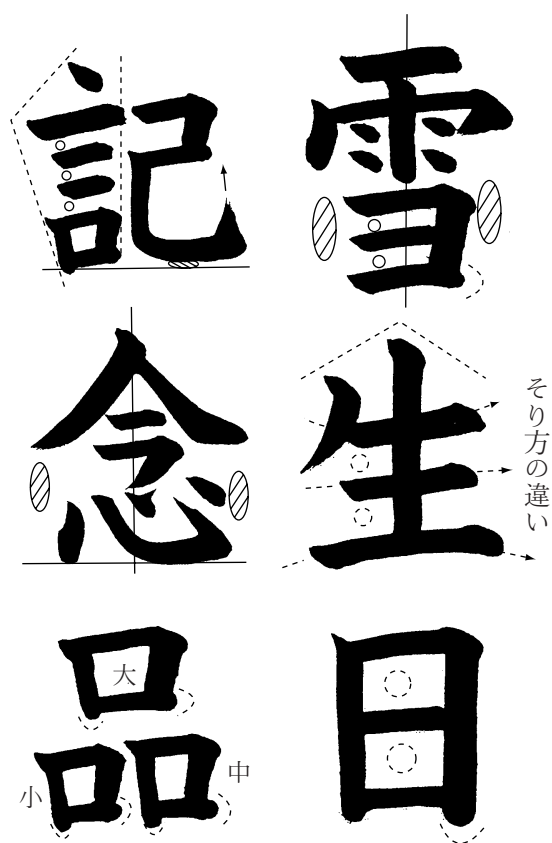
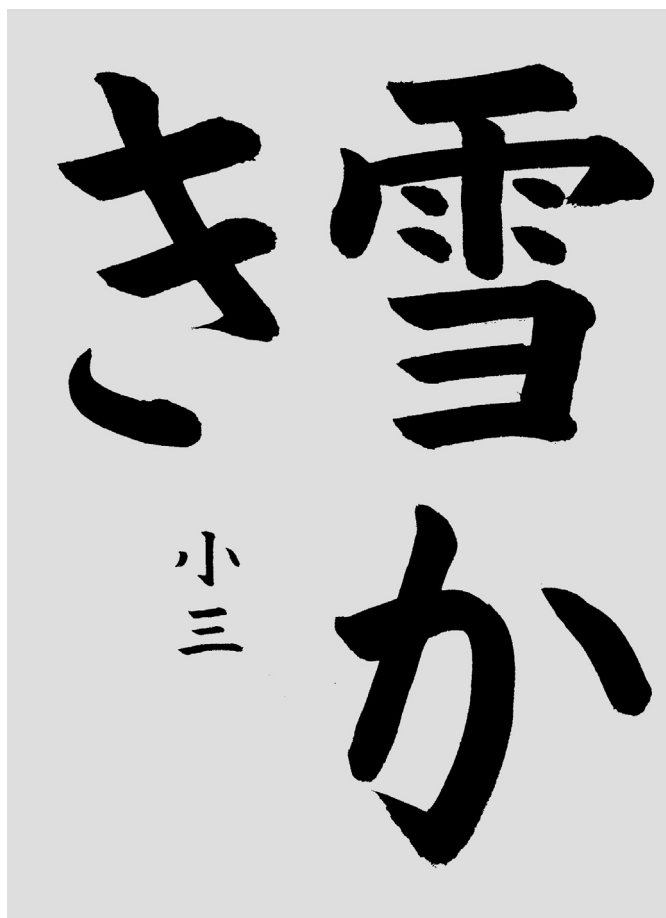
ち

少し出る
わ

中心
る

ち

る



小三、小五年

水野の香竹書

中二・三
受 高
験 校

小六
三 日
景 本

小六・中二・三年

奥村暢之書

リズムよく
源
受
験
点の省略

やや外に
なめらかに

そり方の違い
長く
等間隔に

三
景
資

中一
回 資
収 源